

子どもに対する性的暴力におけるジェンダー分析～進展はあったのか？ マリスナ・ユリアンティ（インドネシア）

今年の始め、インドネシアでは、子どもに対する恐ろしい暴行事件が頻発し、社会が騒然となりました。わずか6歳の子どもの性的暴行が加えられる事件が発覚し、その現場が、インドネシアでも有数の名門校とされるジャカルタ・インターナショナル・スクール（JIS）であったこともあり、社会に衝撃が走りました。さらに同じ時期に、同様の事件が発生し、ウエストジャワのスカブミで、ある男が80人以上の子どもの性的いたづらを加えたとして、告訴されました。恐らく最もひどい事件は、6人の子どもの性的虐待を加えた後に手足を切断して殺害した、リアウ州の事件でしょう。加害者は全員男性で、被害を受けた子どもたちも、ほとんどは少年でした。

インドネシア児童保護国家委員会によると、2013年は、1,620件の子どもに対する暴力事件が発生しました。そのうち、19%は精神的虐待、30%は身体的虐待、そして一番多いのが、性的虐待であり、全体の51%を占めました。性的虐待の被害者の大半は女性および少女であり、この事実は広く認められていることですが、性的虐待は、明らかに、男性や少年にも加えられています。2013年に、インドネシアの社会省と女性のエンパワーメントおよび児童保護省では、子どもに対する暴力に関する調査を実施しました。調査に参加したのは、過去12カ月に身体的虐待、精神的虐待、性的虐待を受けた13歳から17歳の子どものです。このうち、およそ300万人の少年、すなわち、少年の4人に1人が、なんらかの身体的暴力を受けた経験があると認めました。また、少女の19人に1人、そして、少年も12人に1人が性的暴行を受けた経験があることがわかりました。

インドネシアでは、少年より少女の方が狙われやすい、と親や大人は一般的に考えており、よって、社会は少女を保護しようとする傾向にあります。少年に対する性的暴行の事件が多い背景には、こうしたこともあると言われています。少年の方が強くて冷静である、という古くからのジェンダーに関するステレオタイプにより、男性が性的虐待の被害にあっても、被害にあったと声を挙げて名乗り出ることがためらわれ、この結果、当局が事件を明らかにすることがより一層難しくなるのです。加害者の大半は男性であり、また、数々の調査結果により、子どもの頃に虐待の被害を経験すると、大人になって加害者になる可能性が高いことが示されており、防止策の検討に、少年や少女のニーズや関心に焦点をあてたジェンダー分析を取り入れることが、きわめて重要です。

事件の発生直後、子どもを対象とした性教育の重要性が、あらゆる場面で話題となり、議論されました。児童心理学者や活動家は、かつては一般的な話題としてはタブーであり不適切とされてきた性教育の意義について、公然と語り始めました。この問題に対して、インドネシア政府も、関連省庁、市民社会、保護者、世間を巻き込んで子どもに対する性的暴行と戦うために、「子どもに対する性犯罪防止国家キャンペーン（Gerakan Nasional Anti Kejahatan Seksual terhadap Anak/GN-AKSA）」を先日開始しました。この運動の中で、

性教育は防止に向けた主要な対策の一つとされています。

「性教育とは子どもや若者に性交渉について教える手段に過ぎず、よって、性教育は子どもや若者を自由で無防備な性交渉に走らせる可能性を高める」といった間違っただけの考えにとらわれているように思える親もまだいます。しかし性教育の実際はそんなものではありません。男性と女性のセクシャリティや性的な発育およびリプロダクションの特性の差、さらには、性に対するさまざまな宗教や文化のとらえ方の差についての意識を高めることを目的としているのです。そうした意識があれば、しかるべき知識に基づいて自分の行動に関する決定を下したり、望まない妊娠、性感染症、性的暴行ならびに性的虐待といった、ネガティブな性行動の影響から自らを守ったりすることができるようになるのです。また、「性教育は年齢に見合ったものでなければならず、最適な教材や教育法を決定する際には、子どもの発育段階を考慮する」といったことは、あまり意味がありません。例えば、子どもに自分の生殖器官を認識させたり、体のどこがセンシティブで、知らない人が触るのを許してはいけない部分かということは、年齢に関係なく教えることができるでしょう。また、社会にまだ存在するジェンダーのステレオタイプを、親が意識するようになることも重要です。少年はピンクの服など着ないし泣かないものだ、というジェンダーに基づくステレオタイプの下では、少年はそのようなステレオタイプに従って振る舞わなければならなくなります。もっと心を開いていいし、気持ちや感情をさらけ出すことを恥ずかしくなくて良いということ、少年に訴えかけてやる必要があります。

最後に、これを機会に、ジェンダー問題は男性と少年の問題でもあるという事実を思い出しましょう。ジェンダーに基づく差別が女性と少女だけの問題である、などという誤った思い込みにとらわれている人が何人いることでしょうか？間違いなく大勢います。

ジェンダー分析により、男女の差に焦点が当てられることになり、そして、男女の双方が平等にその恩恵を受けることができるよう、双方のニーズに対応する手段を模索することができます。ジェンダーは女性だけの問題ではなく、男性の問題でもあり、そしてまた、男女の双方が人生のさまざまな場面において充実した平等をいかに達成するかの問題でもあるのです。ジェンダーの正しい理解こそが、性行為の強制から解放される権利も含め、男女が権利を十二分に享受する改善への道なのです。